

## 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会 第20回幹事会議事録

- ・日時：平成21年2月12日（木）9:25～10:30
- ・場所：蒲郡市役所6階601会議室
- ・出席：（自治体）西尾市 増山企画課長、谷崎主事  
蒲郡市 市川企画部次長兼企画広報課長、川畑主事  
吉良町 近藤企画課長、伴野課長補佐  
幡豆町 深谷企画課長、志賀課長補佐  
（名鉄）東部支配人室 三浦支配人、近藤営業課長、下田専任調査役、  
山田西尾駅長  
企画管理部 石田企画課長、牧野課長補佐、近藤担当員  
（オブザーバー）愛知県地域振興部交通対策課 高木課長補佐、矢口主査

### 〔発言要旨〕

#### （名鉄）

- 前回幹事会の協議内容を踏まえ、各構成員において、協議会の新たな体制について改めて検討を行うことになっていた。このため本日の幹事会では、その検討状況を伺った上で、議論を行いたいと考えている。よって、前回幹事会以降での検討状況、あるいはお考えについて、それぞれお聞かせ願いたい。

#### （愛知県地域振興部交通対策課）

- 前回の幹事会では、県が新たな協議会の会長となるよう求める意見が沿線市町からなされたことから、改めて部内で検討したが、やはり地元市町が中心となって検討を進めていただくべきものとの考えに変わりはない。
- 県としては、沿線市町をサポートし、調整役としての役割を担うのは当然のことと考えているが、県が中心となるものではなく、あくまで沿線市町の主体的な取り組みが必要ではないか。
- よって、県が会長という立場に関わることは考えられず、それでもなお会長として参画を求められるのであれば、参画すること自体についても再考しないといけないと思っている。

#### （西尾市）

- 沿線自治体では、存続に向け、他の自治体と協働して取組んでいきたいと考えるが、2市2町に跨る広域的な問題であることから、県がリーダーシップをとるべきだと考えている。よって県の、会長としての参画を求められるのであれば参画すること自体を再考しないといけない、との発言は残念に思う。

#### (幡豆町)

- 西尾市同様、西三河南部の交通体系という観点から、幡豆町だけでは考えられないと思っている。よって県として、この地域の交通体系をどのように考えているのかを明示してもらいたい。
- また、県が会長職を受けられないならば、現状のまま、名鉄がその職に就くことはできないのか。

#### (吉良町)

- 当町としても、あくまでも県にリーダーシップをとっていただき、進めていただきたいと考えている。県は、地元市町で行うのが筋とのことだが、それはなぜなのかを示してもらいたい。
- 昨年末、県の交通対策課長が当町へお越しになった際、調整役を担っていききたいと発言された。我々としては、県が主体となっていたらと理解していたが、その発言の真意はどこにあったのか。

#### (蒲郡市)

- 一路線が一自治体で帰結するならともかく、西三河南部地域という広域的なエリアに関する問題と認識している。よって、沿線自治体として考える必要があることは理解しているが、県にリーダーシップを発揮いただくことを期待している。
- 昨年末に県の交通対策課長が当市へお越しになった際、調整役を果たしてきたいと発言があったため、県がリーダーシップをとっていただけるものと理解していた。沿線2市2町のおかれた環境によって、それぞれの事情も異なる中で、調整を行うには限界があり、そうした広域的な観点からも、県に調整役としての役割を担っていただくことを期待しているところである。また、国や県のサポートがなくては、うまくまとまらないと思う。

#### (愛知県地域振興部交通対策課)

- 西尾・蒲郡線の西尾～蒲郡間を実際にご利用になられる方の多くは、市民や町民であり、その観点からは、沿線市町が主体的に考えることが必要ではないか。調整役という表現は、沿線市町の間にある温度差を、黒子として調整する、という意図である。
- 西尾・蒲郡線は、三河地方南部の交通ネットワークを形成し、新城から蒲郡までを結ぶ重要な路線で、軽々になくすというわけにはいかない、との認識である。ネットワークを形成するという点で言えば、桃花台新交通などとは、その性質が異なるのではないかと考えている。

#### (吉良町)

- 地元住民が利用するとのことであるが、観光客を始めとした、他地域からの流入も考える必要があり、地域の発展という観点が必要ではないか。

#### (西尾市)

- 沿線2市2町としては、県に中心となって進めてもらいたいとの思いは同じである。よって、沿線市町で調整の上、別の方法で県に対する働きかけを行うことも考える必要があるのではないか。新たな体制が確立されない中であっては、具体的な協議の方向性の検討にも取り掛かれない。

#### (蒲郡市)

- 議会関係者だけでなく、財界でも、この問題を気にかけているようである。確かに、これまで議論を重ねて結論が出ないとなれば、別の角度から考え方を整理する必要があるだろう。県としても、こういった形ならば受けていただけるか、ということについてお示しいただけるとありがたい。
- 沿線には温泉地などもあり、地元住民に加えて、観光客の利用という観点もある。そうした観点からも、県がリーダーシップを発揮することが必要ではないか。
- 蒲郡線については、以前は安城方面からの直通列車もあったが、現在では、全ての列車が吉良吉田駅での折返し運転となっており、加えてストアードフェアカードが利用できないことから、他地域からの利用がしにくい環境になっている。同時に、以前は名鉄自身が観光に力を入れていたが、それらもなくなるなど、環境の変化が著しい状況にある。

#### (幡豆町)

- 当町では国の支援を受け、都市と農村の交流事業を進めているが、こうした取り組みについても、鉄道をご利用いただくことを前提としている。こうした点からすれば、単に交通対策だけでなく、産業振興など、もう少し幅広い視点からの検討も必要だ。こうした点からも、県のサポートが必要と感じている。

#### (愛知県地域振興部交通対策課)

- この区間のご利用者の半数以上は通学定期利用者で、通勤定期も含めると、大半のご利用者は地元住民、と考えるのが妥当ではないか。
- 新たな体制に対する折衷案として、例えば前回幹事会において、県が事務局を務め、沿線市町のいずれかが会長職に就くといった案が提示されたが、何らかの妥協点があれば、県としても検討はしていきたい。
- この問題について、県が中心になるとすれば、地元市町のように、細かなところに目が届かなくなってしまう。別角度から考えるということならば、スタッフ的にも相応の人員を擁する西尾市や蒲郡市が中心となって検討をいただくということも、併せて考えていただきたい。

#### (蒲郡市)

- モータリゼーションの進展へ対応する中、自治体も、道路の整備は積極的に進める一方で、鉄道については事業者任せであった。その結果として、鉄道の利用者は、その多くが車を利用できない方で占めることになった、という面もある。

**(名鉄)**

- 事業者自らが会長職に就くことは適切ではないと考えており、沿線市町に主体的に取り組んでいただきたいと考えている。
- これまでの議論では膠着状態にあることから、現在の対策協議会の事務局として、新たな体制について、何らかの具体的な提案をさせていただきたいと考えているが、これまでの2市2町のお話を伺う限り、沿線市町として、どのようにお考えなのかが分からない。県に対して主体的な検討をいただきたいとのことだが、それは県に判断を委ねるとのことか。

**(蒲郡市)**

- 2市2町のいずれかが会長職にあり、仮に財政支援というような話になった場合、その判断や調整には、難しい面があるのではないかと。沿線市町として判断をしない、ということではなく、例えばダム建設に係る下流市町の負担金割合などのように、県の調整があつて決まるというような面もあり、その観点で、県の関与が必要だと考えている。

**(愛知県地域振興部交通対策課)**

- 新たな対策協議会に参画すること自体については、県としても異論はないところである。問題は、その参画する形をどうするのかということであり、あくまでも県は、調整役を担っていきたいと考えている。

**(名鉄)**

- 本日の協議を踏まえ、本対策協議会の事務局として、次回幹事会までに、何らかの提案をさせていただくことも考えていきたい。
- 次回幹事会は、平成21年2月23日14時45分から、名鉄西尾駅会議室で開催する。

(以 上)